巻 頭 言

まずは、2023年度の公立大学協会図書館協議会（以下、「公大図協」とします。）会長として、会員館の皆様には多くのご協力をいただきましたことに対してお礼を申し上げます。

2020年からの新型コロナウイルス感染症対策のため、大学また図書館の活動にも様々な制限がかけられてきましたが、年度初めには感染症法の位置づけが5類に変更されたことにより、日常生活を取り戻す一年になったと感じています。とは言え、公大図協では今年度も総会及び拡大役員会の全てがオンライン開催となりました。これは感染症を理由としたものではなく、コロナ禍により遠隔会議システムが充実したことで、これまでの会議の持ち方を見直すという社会の動きを受けたものですが、顔と顔を合わせることで生まれる人間関係が期待できなくなったことは残念に思っています。

さて、今年度は、100校目の公立大学である旭川市立大学の図書館が公大図協に入会してくださいました。会員館数は97校となり国立大学図書館協会を上回っておりますが、公立大学図書館はコロナ禍により悪化した設置者である地方公共団体の財政状況などを受けて厳しい状況に置かれています。特に非正規職員の増加や外部委託などによる職員体制の脆弱さは、公大図協にとっても大きな課題と考えています。

また、公大図協ではコロナ禍以前から会の活性化と事務の省力化は課題であり、一昨年度には改革小委員会、昨年度は改革実施小委員会を設置し様々な検討をしてまいりました。今年度も前会長から改革実施小委員会事務局を引き継いで、懸案である「公立大学図書館（加盟館）概要」の見直しのほか、公大協との関係見直し時から手つかずとなっている会の名称や特例として減額後に徴収しないとしている会費の検討を行いました。委員をお願いした滋賀県立大学、福島県立医科大学、大阪公立大学、横浜市立大学の皆さまにはご意見、ご提案をいただいたことに感謝しております。

検討事項の実施に向けては会則により役員会での承認が必要なことから、第2回拡大役員会で協議を行い、審議が未了となった加盟館概要の見直しについては、第3回拡大役員会（メール審議）を開催し承認をいただくことができました。また、ホームページの構成についてはHP委員会にてご協議いただきました。役員館及びHP委員会の皆さまにはご多忙のなかご協力いただいたことにお礼を申し上げます。

今年度は改革小委員会の提言を踏まえて改革実施小委員会で検討した事項の、実現に向けて歩み始めることに役員会の承認を得られたと考えていますが残りの任期は僅かです。実際の作業は次期会長館に委ねることとなりますが、前会長館としてできる限りの協力をさせていただく所存です。

公立の外国語大学は本学のみということとはともかく、公立大学図書館は施設規模や蔵書、組織体制が多様であることから、公大図協の存在意義をしばしば見失うこともあろうかと思いますが、設置者が地方公共団体であることや地域貢献が重要であるなどで共通の課題も多くあります。会員館の皆様におかれましては、今後とも引き続き公大図協の活動にご理解・ご協力を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

令和6（2024）年3月

公立大学協会図書館協議会
会長（神戸市外国語大学図書館長）
芝 勝 徳